

第98回 相模湖地区まちづくり会議 全体会 結果

- 日 時 令和7年8月21日（木）・19時開会
- 場 所 相模湖総合事務所 3階 大会議室
- 出席委員数 18名出席（5名欠席）
- 傍 聴 者 0名

1 開会

2 代表あいさつ

○河津代表からあいさつ。

3 報告事項等

（1）相模湖地区まちづくり会議名簿の更新について

○事務局から標記の件について添付資料のとおり説明。

（2）各部会からの報告について

・産業・観光専門部会

吉良部会長から、第2回相模湖の歴史物語セミナーについて1月25日に開催予定である旨の報告があった。

内容については「与瀬神社の謂れや歴史について」を予定している。

・子ども・若もの専門部会

川村部会長から、専門部会で学習会を開催する旨の報告があった。

テーマは「子ども、若者の通勤通学の選択肢を減らさないために私たちにできることを考える」

4 協議事項等

（1）令和7年度地区まちづくり会議における学習会（仮称）について

○事務局から標記の件について添付資料のとおり説明し、協議した。

協議の結果、防災についてメインテーマで行っていくこととなった。

内容については、次回のまちづくり会議全体会で決めることとなった。

*各委員からの主な意見・質問（◇主な意見・質問等、◆回答等）

◇2年前のまちづくり懇談会でライドシェアについて市長に質問したが、その後の進み具合等についてももう一度確認したい。

◇内郷中学校の近くでクマの目撃情報があり、対応に迫われたことがあった。県内、市内の野生動物の実態を知って、どのような対策を行うべきなのかを考えていく必要があると考えている。

◇8/15の広報さがみはらにて中山間地域の公共交通の再編に伴う乗り合いタクシーの実証運行を10月から開始されるという内容が掲載されていた。子ども・若もの専門部会としても通学路という視点で個別の学習会を開くこととなった

が、地域としても交通の在り方を考えていきたい。

- ◆役員会では子ども・若もの専門部会としては、交通について子供の目線で話したいのでまちづくり会議の学習会のテーマとしては扱わないでほしいという話がでていた。ただ、今回そのような方針でまとまるのであれば、行ってもいいとは考えている。

◇近年災害級の豪雨が増加している。避難所と指定されている施設では昨年度ひどい雨漏りをしていた千木良小体育館をはじめ、相模湖地区の避難所はどこも規模の大小はあれど雨漏りをしている。施設の状態の確認を行っていく必要があると考えている。

千木良小、桂北小は土砂災害では避難所として使えないということとなっている。そうした理由についてどこが危ないなどの理由が近所の人に聞いたときに理由がバラバラである。どこが危ないのかをみんなで確認する機会が必要であると考えている。

◇相模湖地域の課題やイベントの情報について交通整理をしてくれるところが欲しい。相模湖地域の各地区ごとで認識している課題やイベントの情報が食い違っていることがあるように感じられる。こちらの会議にもっと集まってくるものと思っていたが意外とそうでもない。

- ◆藤野はそうしたところがうまくいっているように感じる。情報発信に観光協会が積極的で会議等の場の発信役を担っている。また、シュタイナー学園がうまく地域と付き合っていて情報を発信している。各団体ネットを活用しているの横の連携が強いと感じている。

相模湖ではイベントの主催を担うことの多い商工会も観光協会もまちづくり会議に欠席していることが多く情報発信に積極的ではない姿勢がみられる。団体間の横のつながりの弱さは課題であると感じている。

- ◆回覧などで流したりはしているが、家庭ごとで流し見て終わってしまったり、対象となる人が見ないまま次の世帯に回っていることもあり周知が難しい部分がある。QRコードなどを活用してもっと後で読めるようにするなどの工夫が必要であると感じている。

- ◆包括支援センターでも取り組みの情報発信に苦慮している。現在はタウンニュースで掲載してもらっているが、ネットなどで発信する方法があればいいと思っている。

- ◆各地域の自治会連合会のHPに掲載してもいいと思っている。

- ◆イベントの情報発信のみならず、イベントを行うことでどのように地域活性化につなげるかを考えるべきであると考えている。

◇相模湖でこの先10年のことを考えて懇談を行ったことはあるか。

- ◆近年はない。コロナ禍以前に情報発信という部分は課題として扱ったことがあるがうまくまとまらなかった。

当時マスタープランの策定にあたって10年先を見据えた内容を話したことはあるが、マスタープラン完成直後に令和元年東日本台風とコロナ禍と立て続けに

きて当時と状況が大きく変わっている。

◇今出てきた話の中で学習会として扱うべきテーマは、情報発信か防災になると考える。

◆学習会で扱うテーマについては防災にしていきたいと考える。

情報発信については長い時間をかけてしっかり話し合うべき事柄であると思うので、改めて話し合いを行いたい。

具体的な方法等については、代表と副代表で検討し、次回まちづくり会議で示したい。

5 その他

- ・地域包括ケアセンター和田氏から前回の地域ケア会議議事の概要について報告があった。
- ・河津代表から9月21日に相模湖地区総合防災訓練と相模原市消防操法大会が開催される旨の報告があった。
- ・山口委員より10月18日19日相模湖野外バレーフェスティバルが開催される旨の報告があった。
- ・森久保理事より内郷郵便局が特殊詐欺を防いだ件で警察より感謝状が贈られた旨の報告があった。

6 閉会

以 上

第98回 相模湖地区まちづくり会議全体会 次第

日 時：令和7年8月21日(木)
午後7時～

場 所：相模湖総合事務所 3 階 大会議室

1 開 会

2 代表あいさつ

3 報告事項

(1) 相模湖地区まちづくり会議名簿の更新について

(2) 各部会からの報告について

4 協議事項

(1) 令和7年度地区まちづくり会議における学習会（仮称）について

5 その他

6 閉 会（ 副代表）

第8期 相模湖地区まちづくり会議委員名簿

資料1

令和7年8月・敬称略

番号	役職	専門部会	所属団体等		氏名	新任委員
1	代表	－	地域活性化事業交付金交付団体	サンタクロースプロジェクト	河津 暁	
2	副代表	産業・観光専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区公民館運営協議会	鈴木 克枝	
3	副代表	子ども・若もの専門部会	公募委員	－	川村 千穂子	
4	理事	産業・観光専門部会	自治会関係	相模湖地区自治会連合会	森久保 高弘	
5	理事	子ども・若もの専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区小学校PTA「桂北小学校」	加藤 千晶	
6	理事	産業・観光専門部会	地域活性化事業交付金交付団体	さがみ湖コンシェルジュ	吉良 奈美乃	
7	理事	産業・観光専門部会	公募委員	－	植田 聡子	
8	理事	子ども・若もの専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区小学校PTA「千木良小学校」	榎本 知代	
9		産業・観光専門部会	自治会関係	相模湖地区自治会連合会	岸 義之	
10		子ども・若もの専門部会	保健・福祉関係団体	相模湖地区民生委員児童委員協議会	清水 孝夫	
11		産業・観光専門部会		相模湖地区社会福祉協議会	岩間 肇	
12		－		相模湖地域包括支援センター	和田 理江	
13		産業・観光専門部会	産業・経済関係団体	相模湖商工会（女性部）	淵上 美紀子	
14		産業・観光専門部会		相模湖商工会（事務局）	山口 進司	○
15		産業・観光専門部会		一般社団法人 相模湖観光協会	佐藤 和仁	
16		産業・観光専門部会		与瀬商栄会	岸野 和広	
17		子ども・若もの専門部会	教育・スポーツ・文化関係関係	相模湖地区小学校PTA「北相中学校」	山本 信宏	
18		子ども・若もの専門部会		相模湖地区小学校PTA「内郷小学校」	能村 俊貴	
19		子ども・若もの専門部会		相模湖地区小学校PTA「内郷中学校」	川上 はぎ乃	
20		産業・観光専門部会	安全・安心関係団体	緑区安全・安心まちづくり協議会相模湖支部	小川 連雄	
21		産業・観光専門部会	公募委員	－	小瀧 俊	○
22		産業・観光専門部会		－	竹内 僚	○
23		子ども・若もの専門部会		－	松本 瑞木	○

〔参考〕令和6年度他地区の勉強会概要

	地区	日時	テーマ	所管課
1	小山	令和6年8月20日	主題：『「安全・安心」～災害に強いまち小山～』 詳細テーマ：災害弱者を減らすことについて （１）小山地区の被害想定と災害対応について （２）災害時要援護者避難支援事業及び 個別避難計画の取り組み状況等について	危機管理課、生活福祉課
2	清新	令和6年11月20日	主題：相模原市のゴミ対策について 内容：ごみ収集で行政が困っていること、 清掃工場はいつまで稼働できるか、 ごみの収集を有料にしたらごみは減るか等	廃棄物政策課、資源循環推進課、橋本台環境事務所

第1回相模湖地域ケア会議地域づくり部会報告

- ◇日 時 令和7年6月 17日(火)午後1時30分～午後3時00分
- ◇場 所 相模湖総合事務所3階 3A会議室
- ◇出席者 別紙名簿参照(委員出席5名・事務局6名)
- ◇内 容

1. 開会

石井部会長より挨拶。

2. 委員紹介、事務局紹介等

3. あいさつ

4. 議題

(1)令和6年度地域ケア会議運営費の報告について

資料1のとおり収支報告をした。

質疑応答(○委員 ●事務局)

○講師謝礼の交通費などにも使える。積極的に活用できると良い。活動費は湖カフェにも活用できないのか。

●取り組みの立ち上げに関する費用であるため、活動継続には活用できない。

(2)認知症理解普及啓発の取り組みについて

<今年度の取り組みについて>

・5月実施の湖カフェがタウンニュースに取り上げられている。

・今年の1月以降は定期的に月1回開催している。今年度は全地域で開催が予定できている。

・実行委員を立ち上げている。包括は後方支援の立場になるよう進める。

意見交換(○委員 ●事務局)

○今月は夢造りパン工房で実施とのことだが、場所を借りると思うので、何かお店側にもメリットがあると良い。

●参加者にはパンを必ず購入してもらうことを条件としている。

○屋外で実施するようだが、熱中症に気をつける必要がある。

●これまで集めた参加料からスポーツ飲料水等は購入できる。湖カフェとして活用できる費用はないが、参加料から工夫できることはしていきたい。

○どのように運営費を工夫しているか。

●様々な福祉事業所が湖カフェに興味を持ってくれていることから、お茶菓子等を提供してくれる。協力し合えていると思う。

(3)地域で取り組む買い物等支援について

①けんこう号の活用状況について

- ・すべてのサロンからけんこう号の利用状況や買い物に対するニーズを聞き取れた。別紙①の内容について共有した。
- ・けんこう号の存在を知っているサロンはほとんどだが、活用状況には差があり、買い物の送迎まで実施しているのは4団体のみであった。

②他地区の移動支援の実践例

- ・おでかけサポート事業でアドバイザー派遣を行っているので、他地区の事例紹介をいただける。
- ・けいゆうおでかけサポートにドライバーとして民生委員が登録。サロンの送迎等で活用できる。

意見交換(○委員 ●事務局)

○けんこう号の実態調査の結果を相模湖福祉相談センターへ意見として伝えてほしい。誰もが使いやすい事業であってほしい。

●事務局から伝えてみる。

○サロンだけでなく、百歳体操の団体もけんこう号の利用調査をしてほしい。

●10団体程度あるので、ヒアリングを行ってみる。

○サロンや百歳体操以外の団体や、団体に所属しない人たちに向けてけんこう号の利用に関するアプローチはどうしているのか。

●介護予防の取組をしている団体が利用状況になるので、これに当てはまらない場合の利用は難しい。

○老人クラブも利用が可能だと思う。

●利用当日に運動することも条件になるので、全ての団体が利用できるわけではない。

○中山間地域医療の検討をする会議にて、けんこう号を病院への送迎に使えないか発言している。週2回程度の頻度で地域を巡回し、病院を回るという案も考えられる。しかし、運動を取り入れないといけない話もあり活用が難しそう。担当部署が異なるため、医療関係者と話を進めることはできない。

●3台にリニューアルにする際に介護予防に関する交付事業から運行しているので、運動するというのが条件になっていると聞いている。

○おでかけサポート推進事業については、けいゆうおでかけサポートが活動をしているが、民生委員の登録もあったのか。

●7月に講習を受けた後に登録予定。サロンや湖カフェに親族や近隣住民を同乗して来ていたので、保険やガソリン代の補助を受けられることを伝えたところ、けいゆうおでかけサポートの登録に興味を示した。

○けいゆうおでかけサポートは、送迎の合間の運行しかできないため、地域で送迎ができるような取り組みは必要だと思う。町田市の成瀬の団体が地域住民で移動支援を積極的に取組んでいる。住民が主体的に取り組んでいるが、中山間地域

の相模湖とは課題が異なると思う。

○移送支援については、いずれ専門家から説明を受けるべきだが、福祉有償運送を実施しているNPO法人モノリスにも説明に来てほしい。

●モノリスはドライバー1名で回している。多くの依頼は受けられない状態。

○藤野地区にある介護事業所の「こあら」の移送サービスはどうか。

●手一杯で相模湖地区まで対応は難しい。

●けいゆうおでかけサポートが金曜日に5人程度集まればお買い物ツアーが検討できると話されている。ニーズ確認のため、サロン等へアンケートを取る予定。

○相模湖には元タクシー運転手がいる。人材を活かしきれていない。行政が探す手段も検討できないのか。

●モノリスから自治会の各戸配布にチラシを撒きたいと連絡があった。人材確保に困っている様子。モノリス側から地域の会議体で人材不足を訴えるのは難しいため、地域づくり部会の委員から人材確保について議論できると連携も図れると思う。

●地域の方々の顔のつながりから、人材の紹介してもらうことも担い手確保につながる。

●けいゆうおでかけサポートとモノリスが連携し、お買い物はけいゆうおでかけサポート、通院はモノリスにするなどの工夫ができるのではないかと話していた。

○けいゆうおでかけサポートとモノリス「ちょこタク」の料金の差はあるのか。ドライバーへの報酬にも差があるのか。

●けいゆうおでかけサポートはボランティアの範囲。福祉有償運送である「ちょこタク」とシステムが違う。

●地域ケア会議費のなかでモノリスを呼ぶ際に、講師依頼の費用を使える。

<今後の取り組み>

・NPO法人モノリスから「ちょこタク」について説明を依頼し、次回の地域づくり部会に来ていただく。

・百歳体操の団体にけんこう号の利用実態の調査を行う。

3. 報告事項

(1)令和7・8年度版高齢者地域情報誌「お達者ちょう」について

・単年度で発行していたが、今年度は2か年で発行をすることになっている。情報が変わったら適時お知らせする形とする。

・3,000部発行予定

(2)個別事例部会

資料4のとおりケース概要の報告があった。

・スーパーの職員から対象者に関する困りごとが挙がった。警察以外に関係機関に相談できることを認知いただけた。

意見交換(○委員 ●事務局)

○スーパー側は対象者に対して入店を拒否すれば課題は解決するかもしれないが、対象者にとっては買い物ができなくなる。様々な人に障がいのある人への理解が必要でないか。

●今回のケースは、入店拒否にする前に、関係機関へ相談するよう共有した。アプローチの仕方を一緒に考えることができる。

○相談の窓口は包括でいいのか。

●まずは職員で話を聞き、適切な相談機関につなげる。

○認知症の方もそうだが、地域で安心して過ごせるシステムが必要。お互いに理解し合うことが大事。

●警察以外の選択肢をスーパーが持っていなかったことが問題点だった。相談できる場所があることを共有できた。

○障がい者理解などの研修会等が必要だと思う。検討ではなくてアドバイスをもらえる方法が良い。

○今回は、いろんな関係機関が集まって話し合えたことが良かったのではないかな。解決までは難しいと思うが、地域で共有し、理解し合うことが大切だと思う。

●個人商店は包括への相談がある。大型スーパーとは連携が図れていない。

○地区社協でみまもりネットの取組を行っている。みまもりネットに登録していない商店といかに連携が取れるかが課題。

○高齢者も障がいのある方も一緒に共生した社会づくりが必要に思う。

(3) ちょこボラ

5月半ばまでの相談件数。今年度から依頼内容を記したリニューアルした。

電気交換、庭の草むしり、フィルター掃除などの依頼。ごみ出しの依頼もあった。

ちょこボラ運営会議は6月25日/⇒7月に延期予定。

意見交換(○委員 ●事務局)

○依頼は減っているのか。

●去年の後半は減っている。年度のはじめは増える傾向にある。また、地域の関係性からちょこボラではなく、隣人同士で支え合っていることも聞く。

4. その他

(1) 次回および今後のスケジュールについて

9月を予定する。モノリスの予定に合わせて調整する。

5. 閉会

大神田副部長よりあいさつ。

以上